令和3年度　西東京市立上向台小学校　学校評価

経営目標				アンケート番号	成果指標									学校関係者評価	改善策
	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組		児童アンケート(下記内容は中学年のもの)	目標値	達成値	保護者アンケート	目標値	達成値	教員アンケート	目標値	達成値		
学力・体力をつける学校	これからの社会を生き抜く児童に対して、新学習指導要領の内容を踏まえ、確かな学力、生活の基盤となる体力を確実に身に付けさせる。	児童の深い学びにつながる主体的な学びを実現する。	「めあて」と「ふりかえり」を意識し、児童自ら「見通し」をもって課題解決に向けて取り組むことができるようにする。	1	授業では、めあてをもってすすんで学習し、まとめやふり返りをしていますか。	3.2	3.42	児童は、授業の初めに「めあて」をもち、授業の終わりには「まとめ」や「ふりかえり」を行いながら、学びを深めていると思いますか。（授業参観などの様子から）	3.2	3.23	・授業の初めには「めあて」を教師と児童が共有し、児童自ら課題意識をもつことができるようにする。 ・授業の終わりには「まとめ」「ふりかえり」を行い、次の学習につなげるようにする。	3.2	3.29	・授業に工夫が見られ、子どもたちが落ち着いて意欲的に学習する姿が見られた。	めあてをもち、すすんで学習することが概ねできている。主体的に学ぶ意識が高まる学習課題の設定、新たな課題への動機付けや自己の成長への気付きにつながるような振り返りを大切にしていく。
		児童の深い学びにつながる対話的な学びを実現する。	他者（友達）との話合いや協働的な活動を通して、比較・関連付けたり、多面的・多角的に考えたりできるようにする。	2	授業では、自分と他の人の考えを比べたり、考えたことを分かりやすくまとめて伝えたりすることができていますか。	3.2	3.19	児童は、話合いや協働的な活動を通して学びを深めていると思いますか。（授業参観などの様子から）	3.2	3.38	・友達や先哲の考えと比較して考えたり、関連付けて考えたり、多面的に考えたりできるようにする。 ・話合いを通して、自分の考えを文章で整理してまとめることができるようにする。 ・根拠を踏まえて考えたり、分かりやすく発表したりすることができるようにする。	3.2	3.25	・友達とかかわり合いながら学びを充実させている様子を、子どもたちの生き生きとした表情から感じることができた。	児童が、様々な人との交流により見方や考え方を広げる良さを実感できるよう、授業改善に努める。児童の思考の広がりや深まりを教師が価値付けるとともに、話合いや協働的な活動の後にしっかりと振り返る時間を設定し、児童が自分の変容に気付けるようにしていく。
		個の実態に応じた学習機会を保障する。	朝学習や補習の時間の設定、東京ベーシックドリルやeライブラリの活用を通して、児童の基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	3	今までに学習した内容がよく分かっていますか。	3.2	3.40	児童は、漢字や計算などの基礎的・基本的な学習内容を理解していますか。（学校では、朝学習や補習日などを活用して補充的な学習を行っています。）	3.2	3.38	補充的な学習を充実させ、既習の内容を確実に身に付けさせる。 ＜2～6年＞ 前学年までの学習内容を身に付けている。 ＜1年＞　　※1年生については年度末のみの評価 年度末時点で、2学期までの学習内容を身に付けている。	3.6	2.64	・個に応じた学習機会が保障できており、子どもや保護者が満足していることが分かる。タブレットの導入も良い影響を与えていると考えられる。	児童・保護者と教員との認識に差異が見られる。朝学習の時間を活用してeライブラリやベーシックドリルを用いながら、前学年までの学習を習慣的かつ継続的に行う。全校で計画的に取り組み、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っていく。
		西東京市GIGAスクール構想を推進し、個別最適な学びを実現する。	1人1台タブレット端末を活用した授業改善を図る。	4	授業では、タブレットを活用しながら学習することができていますか。	3.2	3.48	児童は、タブレットの活用により学びを充実させていると思いますか。（eライブラリ、調べ学習、観察記録、スライドなど）	3.2	3.15	学習内容に応じた適切な活用を通して、個の学びを充実させる。 ・eライブラリの活用 ・観察・記録、ポートフォリオ作成機能での活用 ・話合いや協働的な学びの場面での活用 ・動画編集、プレゼンテーションでの活用	3.2	2.96	・登校できない期間（学級閉鎖時）であっても、オンライン学習の取組から学びの保障がされて良い。子どもたちの体力差に配慮し、教科書等とタブレットのバランスを考えて持ち帰らせていることが分かり、安心した。 ・保護者と先生の評価が低いが、子どもたちはよくタブレットを活用できている。子どもたちができていることを保護者向けにたくさん発信していくと良い。	今年度作成した「タブレットマスターカード」を用いながら、学年の発達段階に応じて、技能の目標を明確にする。情報保護の観点から、現状のタブレット使用には一部制限があるが、教員が活用の仕方について情報共有しながら新しい取組に挑戦し、個の学びを充実させる方法を学んでいく。また、授業中の取組をホームページなどで積極的に発信するとともに、授業と家庭学習でつながりをもたせるような活用も広げていく。
		「西東京市あったか先生」を踏まえた「わかる・ほめる体育授業」を実現する。	研究奨励事業を活用し、体育科の授業改善と活発な授業研究を行う。	5	体育の学習では、自分の運動の課題を見付けながらすすんで取り組むことができていますか。	3.2	3.53	児童は、体育の学習に意欲的に取り組むことができていると思いますか。	3.2	3.55	「わかる、ほめる体育授業」を通して、自分の考えを安心して他者に伝え、考えを広げ深められるようにする。 ＜低学年＞遊び方を工夫して、自分の考えを友達に伝えたり受け止めたりする。 ＜中学年＞自己の運動の課題を見付け、考えたことを友達と伝え合い、工夫したり、試したりする。 ＜高学年＞自己やグループの課題を見付け、自己や仲間の考えたことを他者に伝え、新たな課題を見出す。	3.2	3.25	・コロナの制限の中、研究奨励校として工夫して取り組んでいる様子がうかがえる。	自分の運動の課題を見付けたり、解決に向けて取り組んだりしながら、自分の考えを広げ深め、すすんで学習する児童が増えた。体育科だけでなく、他教科等でも「わかる・ほめる授業」を通して考えを伝え合う力や見通しをもって課題を解決する力を育んでいく。
安全・安心な学校	児童が安全に、安心して通うことができ、保護者が安心して通わせることができる学校づくりを推進する。	未然防止を前提とした「いじめ」対応といじめ解消率100%を実現する。	正しい言葉遣いなど、言葉に対する意識を高めながら言語環境を整備するとともに、「ほめる」「子どもの話をていねいに聞き、受けとめる」ことにより、人権教育の充実を図る。	6	正しい言葉づかいを意識し、相手への思いやりの気持ちをもって、「さん」づけで呼んでいますか。	3.2	2.70	学校は、正しい言葉遣いや思いやりのある言葉遣いを大切にした教育活動を実践していると思いますか。	3.2	3.36	・教職員が手本となり、正しい言葉遣い、思いやりのある言葉遣いを実践する。 ・児童の名前を「さん」を付けて呼ぶ。 ・児童相互が「さん」を付けて呼び合えるようにする。 ・よい行動はしっかりほめ、よくない行動は心を込めて冷静に指導する。	3.2	3.55	・正しい言葉遣い、「さん」付けを低学年から取り組んでいて、努力が伝わる。子どもたち同士、互いの関係が温かくなる。地域でも、協力していけるとよい。	教職員の振る舞いや日常的な指導により、誰に対しても「さん」付けで呼ぶことは年度当初より浸透し、定着しつつある。しかし、上学年では肯定的な回答が低い。「さん」付けをしても心の距離は変わらないことを意識付けていく。また、1年生のうちから全教職員で「さん」付けで呼ぶことを徹底し、正しい言葉遣い、思いやりのある言葉遣いを大切にする環境を整えていく。
			「いじめはどんな環境でも発生するものである」という認識に立ち、いじめ防止に向けた取組を推進する。	7	自分は、いじめは絶対にしないと思いますか。	3.2	3.64	学校は、いじめ防止に関する取組や授業を通して、いじめに対する正しい認識を児童に育んでいると思いますか。（アンケート、道徳授業等）	3.2	3.26	・組織的な対応により、いじめの早期発見、早期解決に努める。 ・年3回のふれあい月間での実態把握、いじめ防止に関する授業を行う。	3.6	3.83	・いじめ防止に関しては、今後も継続した取組をして、日頃から問題意識をもって早期発見に対応をお願いしたい。	9割以上の児童が「絶対にいじめはしない」という意識をもっている。今後もいじめ防止の指導を日常的に行い、児童の人権感覚を育むとともに、便りやホームページでも取組の様子を発信する。また、年3回の「ふれあい月間」を中心に、日頃から実態把握に努め、いじめの問題に対する組織的な対応を継続していく。
			「新しい生活様式」に基づき、感染症対策を講じ、児童への指導を徹底する。学校管理下における、教師の見守りや、安全対策を徹底する。	8	上小のきまりを守り、健康や安全に気を付けて生活することができていますか。	3.2	3.56	学校は、児童の健康や安全を守るための対策を行っていると思いますか。（時差登校、検温確認、給食指導、校内の消毒、休み時間の見守り等）	3.2	3.59	＜上小安全対策5項目＞ ・3つの密（密閉・密集・密接）を回避する。 ・手洗いやマスクの着用についての指導を徹底する。 ・時差登校を実施し、毎朝の検温確認、健康観察を確実に行う。 ・「上小給食指導マニュアル」に基づいた指導を確実に行う。 ・休み時間、下校時間帯の見守りを行うとともに、下校後の消毒の徹底等、安全対策を徹底する。	3.6	3.76	・教室や廊下を見渡したところ、健康や安全に関する掲示がしっかりされていて、学校の取組の様子がよく分かり、安心できた。	上小安全対策5項目について、教職員間で共通理解し、徹底してきたことにより、きまりを守ることや健康・安全に気を付けることについて児童にも浸透した。感染症対策を中心に、状況に応じてその都度、必要な対策を確認しながら、児童の健康・安全を確実に守っていくことができるようにする。
かかわりを大事にした学校	人や社会、自然などとのかかわりとつながりを大切にした豊かなコミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。	年間を通じて「かかわり」を重視した教育活動を実現する。	学年での挨拶運動や日頃の挨拶の指導を、地域、保護者とも連携を図り、全教職員の共通理解のもと確実に行う。	9	誰に対しても、自分からすすんであいさつをしていますか。	3.2	3.49	学校は、挨拶に関する指導を継続的に行い、児童がすすんで挨拶をすることができるようにしていると思いますか。 （日々の指導、あいさつ運動等）	3.2	3.42	・日常的な学校での指導のほか、学年便り、保護者会等を通じて地域・保護者への理解・協力を得るとともに、成果や課題を共有し児童自ら進んで挨拶できるよう継続的な指導を行う。 ・学年の発達段階に応じたコミュニケーション力育成に向けて指導する。	3.2	3.32	・上小の子どもたちは元気よく挨拶をしている。 ・校内での挨拶はよくできているが、校外での挨拶にはまだ課題がある。家庭と学校で連携して指導していきたい。	児童、保護者ともに9割以上が肯定的な回答をしており、自ら挨拶できる児童が増えている。登下校の挨拶のみならず、来校者や地域の方へもすすんで挨拶をすることができるよう、発達段階に応じた挨拶指導を積み重ねる。
			年度当初に異学年交流班（フレンド班）を編成し、年間通じて学年を超えた交流活動を行う。	10	他の学年の友達と遊んだり、いっしょに活動したりすることは楽しいですか。	3.2	3.54	学校は、学年を越えた関わりがもてる教育活動を工夫していると思いますか。 （フレンド班活動、全校オリエンテーリング等）	3.2	3.64	・フレンド班活動、全校オリエンテーリング、上小まつり等の学年を越えた学び合いの機会を保証するとともに、学年の発達段階に応じたコミュニケーション力の育成に向けて指導する。 ・コロナ禍でも可能な異学年交流の方法を考え、実践する。	3.2	3.48	・コロナ禍でも、地域の環境を生かしながら、学年を越えて関わる活動に積極的に取り組んでいることが分かる。	コロナ禍ではあったが、安全対策を講じながら異学年交流の機会を保障できた。フレンド班活動のみならず、各教科等においても異学年で交流する機会を設けていく。また、これまでの行事の見直しを行いながら、さらに児童の願いを実現できる異学年交流の場になるよう計画し、関わり合う楽しさや喜びをより一層感じられるようにしていく。
地域とともにある学校	地域と共にある学校を目指して、地域社会と連携を深め、地域に愛される学校づくりを推進する。	カリキュラム・マネジメントの視点から、学級、学年単位で「地域の人・もの・こと」を効果的に活用した教育活動を展開し、社会に開かれた教育課程を実現する。	各教科や総合的な学習の時間において、カリキュラム・マネジメントの視点から、地域の人・もの・ことを効果的に活用した単元や授業を構想し、展開する。さらに、その成果について地域に発信する。	11	地域の人・もの・こと　とのかかわりを通して学ぶことは楽しいですか。	3.2	3.43	学校は、「地域の人・もの・こと」を活用した学習を充実させていると思いますか。（各教科、総合的な学習の時間、行事等）	3.2	3.21	・教科横断的な視点から育てたい力を明確にし、単元や学習内容を編成する。 ・教育内容（教育活動）に有効な地域の人的・物的資源を効果的に活用する。 ・PDCAサイクルを意識して指導の成果を振り返り、HPや通信等で積極的に発信する。	3.2	3.16	・伝統工芸の手描き友禅の授業を見ることができて良かった。学びの中に伝統文化体験の場があることは貴重である。 ・コロナ禍での地域とのかかわり、学校以外の方との関わりも大切にしていきたい。	生活科や総合的な学習の時間を基軸としたカリキュラムをもとに、地域とのつながりを一層深め、コロナ禍においても保護者や地域の方との交流をもつことができるよう工夫する。今年度の取組や協力していただいた方・施設などの情報をデータベース化し、実践を積み重ねていく。また、学習の様子や成果を地域に発信し、活動の幅をさらに広げていく。
			情報発信を積極的に行い、保護者が通信機器を通しても学校の様子を理解できるようにする。	12				学校は、教育活動について、ホームページなどで十分に情報発信していると思いますか。（各学年週1回更新、校長ほぼ毎日更新）	3.2	3.53	学校からの便り、日々の教育活動、児童の様子について、週に1回以上ホームページに掲載する。	3.6	3.75	・子どもたちの様子がよく分かりありがたい。今後も掲載を続けてほしい。	97%の保護者が肯定的な回答をしている。今後も、日々の教育活動や児童の様子について、週に1回以上のホームページ掲載を継続する。
業務改善・働き方改革	勤務時間管理と勤務時間・健康管理を意識した働き方を推進する。	業務内容の精選及び組織的・効率的な業務の遂行を通して、在校時間が53時間を超えないようにする。	・校務分掌、学年・学級事務、行事等における業務の精選、効率化を図る。 ・各主任の自覚と責任のもと組織力を結集させる。 ・週1回定時退勤日を設定する。 ・勤怠システムを活用し自己の働き方を振り返る。	13							・週の在校時間が53時間を超えないようにする。（年2回調査期間を設定） ・担当する校務分掌、学年・学級事務及び行事等において、優先順位を明確にするとともに、業務内容や取組方法について2つ以上改善を図る。（職種を意識したそれぞれの立場から） ・会議の精選や時間の厳守、校務支援システムを活用した情報共有の効率化を図る。	3.2	2.86	・上小の先生方には大変感謝している。地域、保護者と連携した教育活動を展開しながら、業務改善につなげていくことを期待している。	業務が多くなっている。定時退勤日の設定、時間外の電話応対の削減、会議の時間厳守など、改善に努める。来年度に向けて見直した体制で組織的に業務を遂行し、これまでの業務内容を精選しながら効率化を図る。